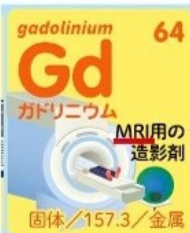


番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
1	10	中右		
	11	中左		
		中右		
		下左		

1803年、イギリスのジョン・ドルトンが

物質はとても細かい粒 (=原子) でできている!

酸素 水素

という説 (原子説) を発表した

ほほ〜!!

続いて1808年、フランスの
ジョセフ・ルイ・ゲーリュサックは

気体どうしを反応させると、
反応する気体と生成する気体の体積の比は
簡単な整数の比になる!

おお〜!

水素 2 + 酸素 1 → 水蒸気 2

という「気体反応の法則」を発見した

う〜ん、
しかし
それでは……

NOTIZIE
DI
CHIMIA

ドルトン氏の原子説と
矛盾してしまう……

<ゲーリュサックの主張>

同じ体積に同じ数の原子があるなら、こうなる!

水素 2 + 酸素 1 → 水蒸気 2

<ドルトンの主張>

原子は
絶対に
割れない!

ちがうんだ!!

原子が集まって
分子が存在する
ことに気づいた
アボガドロ

気体の物質は原子がくっついたかたまり
「分子」として存在しているんだ!

水素 2 + 酸素 1 → 水蒸気 2

そう考えればゲーリュサック氏の
考え方でも矛盾しない!!

番号	訂正箇所 ページ	行	訂正文
2	47	中	1803年、イギリスのジョン・ドルトンが 物質はとても細かい粒 (=原子) でできている! 酸素 水素 という説 (原子説) を発表した ほほ〜!! 続いて1808年、フランスの ジョセフ・ルイ・ゲーリュサックは 気体どうしを反応させると、 反応する気体と生成する気体の体積の比は 簡単な整数の比になる! 水素 2 + 酸素 1 → 水蒸気 2 という「気体反応の法則」を発見した う〜ん、 しかし それでは…… NOTIZIE DI CHIMI ドルトン氏の原子説と 矛盾してしまう…… <ゲーリュサックの主張> 同じ体積に同じ数の原子があるなら、こうなる! 水素 2 + 酸素 1 → 水蒸気 2 <ドルトンの主張> 原子は 絶対に 割れない! ちがうんだ!! 気体の物質は原子がくっついたかたまり 「分子」として存在しているんだ! 水素 2 + 酸素 1 → 水蒸気 2 原子が集まって 分子が存在する ことに気づいた アボガドロ そう考えればゲーリュサック氏の 考え方でも矛盾しない!!

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
3	106	11	仮説 課題に対する自分の考えは？	仮説 ？に対する自分の考えは？

番号	訂正箇所		原文
	ページ	行	
4	175	上	調べよう ① <u>空かん</u>に水を少し入れて、<u>沸騰</u>するまで加熱する。 ② さかんに湯気が出るようになったら加熱をやめて、<u>綿の作業用手ぶくろを二重に身につけた状態で、空かん</u>にふたをする。 ③ むらしたぞうきんの上に<u>空かん</u>を置き、観察する。 水を少量入れる。 熱する。 冷やす。 注意 ● <u>空かん</u>が熱くなるので、やけどに注意する。 ● すべり止めがついた作業用手ぶくろは使用しない。 ● <u>空かん</u>で手を切らないように注意する。 資料動画

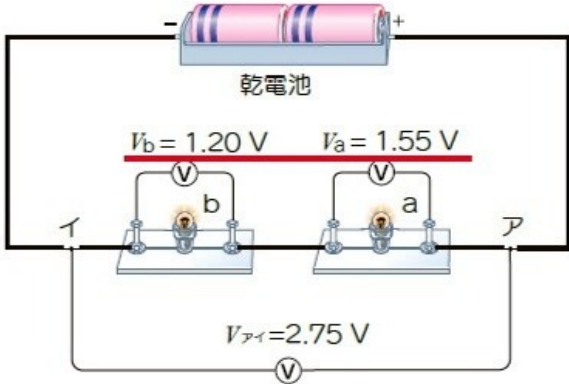
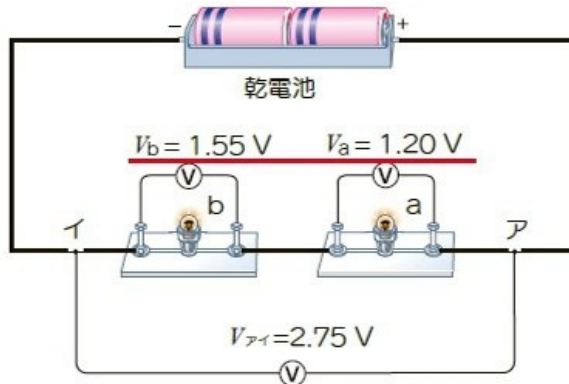
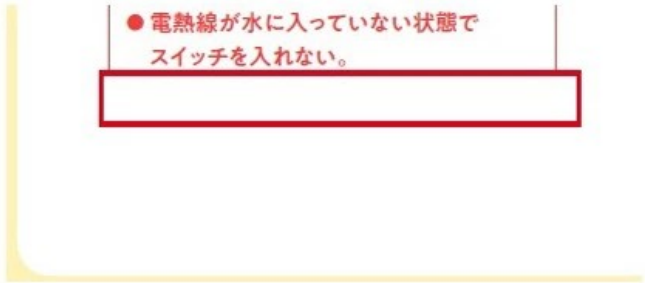
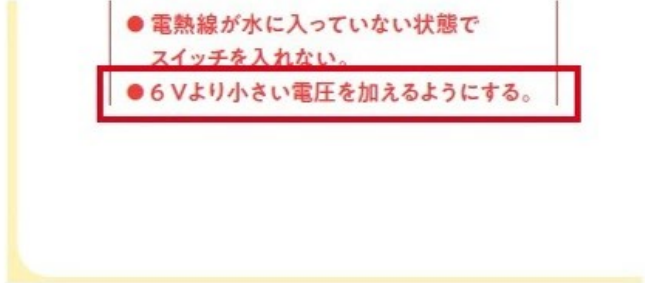
番号	訂正箇所		訂正文
	ページ	行	
4	175	上	調べよう ① <u>空きかん</u>に水を少し入れて、沸騰するまで加熱する。 ② さかに湯気が出るようになったら加熱をやめて、<u>綿の作業用手ぶくろ</u>を二重に身につけた状態で、<u>空きかん</u>にふたをする。 ③ ぬらしたぞうきんの上に<u>空きかん</u>を置き、観察する。 注意    ● <u>空きかん</u>が熱くなるので、やけどに注意する。 ● すべり止めがついた作業用手ぶくろは使用しない。 ● <u>空きかん</u>で手を切らないように注意する。 資料動画 水を少量入れる。 熱する。 冷やす。

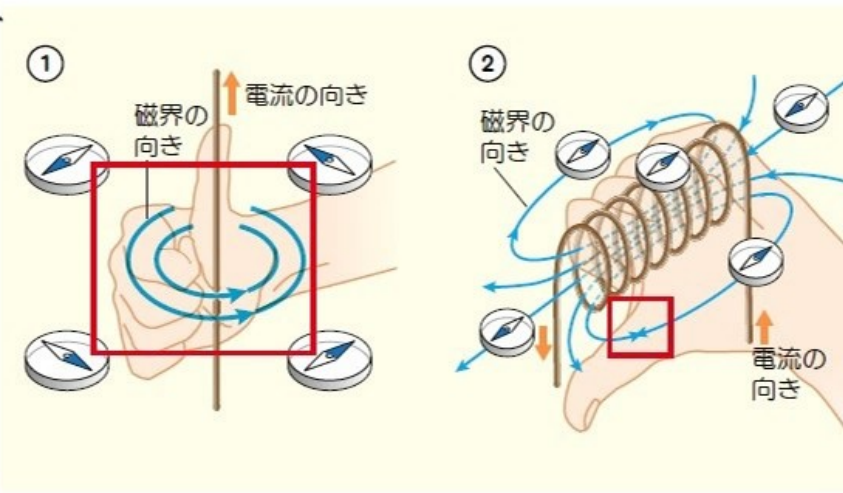
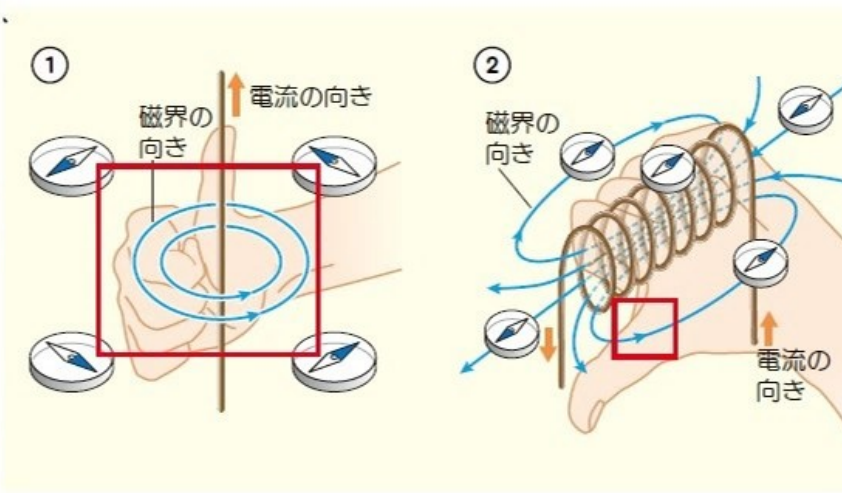
番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
5	194	中	積乱雲からもうれつな 下降気流がふきおろし、 地面にぶつかって水平に 広がるときに発生する、 目に見えない空気とっほう のかたまりのような突風 この突風に巻きこまれ機体のコントロールを失うと、飛行機は墜落することがある	積乱雲からもうれつな 下降気流がふきおろし、 地面にぶつかって水平に 広がるときに発生する、 目に見えない空気とっほう のかたまりのような突風 この突風に巻きこまれ機体のコントロールを失うと、飛行機は墜落することがある
6	200	中右	★1 これまでに学んだこと 密度 → 中1 ● 単位体積あたりの質量のこと。 ● <u>物体</u>の密度 [g/cm³] $= \frac{\text{物質の質量 [g]}}{\text{物質の体積 [cm}^3\text{]}}$	★1 これまでに学んだこと 密度 → 中1 ● 単位体積あたりの質量のこと。 ● <u>物質</u>の密度 [g/cm³] $= \frac{\text{物質の質量 [g]}}{\text{物質の体積 [cm}^3\text{]}}$
7	204	上左	を流れる小川、<u>グラウンド</u>や広場など、ふだんは何でもない場所が、とつぜんの大雨や雷で命を落とす場所になる	を流れる小川、<u>グラウンド</u>や広場など、ふだんは何でもない場所が、とつぜんの大雨や雷で命を落とす場所になる

番号	訂正箇所		原文
	ページ	行	
8	223	下	シベリア高気圧 211 冬にユーラシア大陸上で成長する高気圧。 シベリア気団 211 シベリア高気圧によってつくられる気団。 太平洋高気圧 211 夏に日本の南東で成長する高気圧。 小笠原気団 211 太平洋高気圧によってつくられる気団。 移動性高気圧 212 春と秋によく見られる、日本列島付近を次々に通る高気圧。 つゆ(梅雨) 212 初夏に日本列島付近で停滞前線が生じ、雨やくもりの日が多くなる時期のこと。 日本列島周辺の主な気団 → P.210  

番号	訂正箇所		訂正文
	ページ	行	
8	223	下	シベリア高気圧 211 シベリア気団 211 太平洋高気圧 211 小笠原気団 211 移動性高気圧 212 つゆ(梅雨) 212 冬にユーラシア大陸上で成長する高気圧。 シベリア高気圧によってつくられる気団。 夏に日本の南東で成長する高気圧。 太平洋高気圧によってつくられる気団。 春と秋によく見られる、日本列島付近を次々に通る高気圧。 初夏に日本列島付近で停滞前線が生じ、雨や曇りの日が多くなる時期のこと。 日本列島周辺の主な気団 → P.210  

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
9	225	下左	② 初夏のころ、日本列島付近では、小笠原^{お がさ わら}気団とオホーツク <u>気</u>団の勢いが同じくらいになり、停滞^{てい たい}前線が生じる。この時	② 初夏のころ、日本列島付近では、小笠原^{お がさ わら}気団とオホーツク <u>海</u>気団の勢いが同じくらいになり、停滞^{てい たい}前線が生じる。この

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
10	254	図 1	 図1 実験3の直列回路の結果例 図1 の直列回路の場合、豆電球aには<u>1.55 V</u>、豆電球bには<u>1.20 V</u>の電圧^{★1}が加わっていた。また、	 図1 実験3の直列回路の結果例 図1 の直列回路の場合、豆電球aには<u>1.20 V</u>、豆電球bには<u>1.55 V</u>の電圧^{★1}が加わっていた。また、
11	262	下左		

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
12	271	上右		
13	281	10	両方が交互に ^{こうご} <u>点滅</u> ^{てんめつ} する	両方が交互に ^{こうご} <u>点灯</u> する
14	303	下右	② ① 140分 ② 発生した熱が空気中ににげてしまうため。 ③ 熱がにげないようにおおう、など。	② ① 140 ② 発生した熱が空気中ににげてしまうため。 ③ 熱がにげないようにおおう、など。